

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

一切れちゃいないー

NO. 72



「まったくうちの子、“糸の切れた凧”みたいに、走り回っちゃって…」という話はよく耳にします。親子って、いつもいつでも“凧と糸”の関係なんですよ。私達のような支援者も同じですが、糸を引く大人、引っ張られることで気持ちよく胸を張って風に乗っていく子ども、そのバランスがとれていないと、子育てによりパワーが必要になり、お互いに過ごしにくくなってしまいます。凧も元気がいいですからね。小さな身体のどこからあの元気が湧いてくるのか、太陽電池内蔵の子ども達に聞いてみると、「ぼくも忙しいんだよ」と汗をかきながら、向う見ずに答えているように見えます。大人でも、なかなか同じ波長では付き合いきれないですからね。“糸が切れた凧”みたいに覚えてしまうのかもしれない。

でもね、「落ち着きがない子」「動きの多い子」と見られがちな姿の中にも、小さな変化があるんですよ。メッセージも必ず込められています。“糸”は切れちゃいませんよ。ちょっと凧に引っ張られ気味ですが、糸がなくちゃ、凧は風を受け止められないですから。

いつも走り回っているように見えても、落ち着かずいろいろな場所を転々としているように見えても、徐々に、いくつかお決まり場所を巡る姿に変わってくるものです。行き当たりばったりではなく、本人なりに「これおもしろそう」と、目星をつけていくのです。まだ、ひとつのことでは遊び込めなくても、立ち寄る時間に変化が出てきます。家でも同じような姿がありませんか？ 散らかし放題に見えるけど、「言われてみれば、これで遊ぶ時間が少し長くなっているかもしれない」って姿です。ここが糸の引っ張りどころです。その遊びを膨らませていきたいですね。「こうするといいいよ」と引っ張りすぎても上手くいかず、ただ見守るだけでは、せっかくの興味が続きません。程よい糸の引っ張り加減を、一緒に考えていきましょう。

凧からの注文が多い場合もあります。「これをしてから次にこれ。ちがう！ それはここに置いておいて。ダメダメぼくのペースじゃなきゃ！」と、自分の気持ちやペースが大いに優先する姿です。「じゃあひとりでやってみたら？」と言えば、そうはいかない。まだ凧は、糸に引っ張ってもらわないと気持ちよく飛ばません。いろいろ注文があるので、だんだん糸は長くなり、時には絡まってしまうこともあります。「あ～あ」とため息をつきながら、もつれた糸をほどく場面も多いと思います。元気で不器用な凧かもしれませんが、糸を持っている人のことは、頼りにしているのです。

そんな子の目標は、「こうすればいいんじゃない」と引っ張られる糸を、心地よく感じれるようになることです。遊びや生活のメニューが増えてくると、「それもいいね」「楽しそうだね」と受け入れられる幅も広がっていきます。“凧と糸の関係”もスムーズになってきます。

凧が空高く飛んでいくためには、気持ちよく風を捕まえるために、程よく糸を引っ張ってもらう必要があります。糸は凧を縛り付けているわけではないですよ。「自分らしく空高く飛んでいけるように」という思いを、引く糸に乗せていると思います。凧も引く糸に合わせていくことで自分でも上手に飛べるようになっていくのです。みんな、なかなかの個性派ですが、“糸”は切れちゃいませんよ。切れることなんかありません。 (R4. 5) K

